

令和元年度 一人一人の確かな学力のために

2年

	学年の目標	1学期末の児童の様子	3学期末の児童の様子
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の定着(まどめの50問テスト90点以上を9割)を目指します。そのために、週に1回程度、小テストを実施し、見直しや間違いを直す習慣を付けさせます。繰り返し漢字ドリルを使い、家庭学習や反復学習を行います。 ・分かりやすく自分の思いや考えを文章に書ける児童を目指します。そのために、主語・述語の関係が成り立っていること、出来事の順番に沿って書くこと、既習漢字を使うことを重点的に指導します。週1回、日記の宿題を出し、書くことに親しんだり、定期的に文章を書いたりする機会を設けます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストの平均は、70点前後にとどまりました。学期末に向けて、国語の時間や家庭学習を活用し、定着させていきます。 ・既習漢字を使う意識は育っています。主語・述語の関係は、日常の発表や国語の読解で意識させていきます。これらが、作文や書くことに繋がるよう、今後も指導していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期末の単元末漢字25問テストでは、90点以上の児童は7割にとどまりました。再テストを実施し、ほぼ全員が100点を取ることができました。 ・現在行っている3学期の漢字小テストでは、平均点が90点です。学年末に向けて、家庭学習や授業の時間を活用し、繰り返し練習を行い、定着を目指します。 ・3学期は1年間を振り返ってという作文を書く学習があります。日々の学習で意識している主語・述語の関係や順番に沿って文章が書けるよう、今後も指導していきます。
基礎・基本 算数	<ul style="list-style-type: none"> ・二位数のたし算やひき算の計算(筆算)の定着(単元末テストで90点以上を9割)を目指します。そのために、週4回の補習タイムや家庭学習期間で既習内容の東京ベーシックドリルに繰り返し取り組みます。 ・全員が九九を確実に唱えられるようにします。そのために、各段を10秒で唱えるテストを実施したり授業の最初にフラッシュカードを用いて九九を確認したりします。1月末までには、1の段から9の段までを1分30秒以内で唱えられるようにします。 ・時刻、時間、長さなどの学習を日常生活に生かせる児童を目指します。そのために、学校生活のできごとを算数の学習と結び付けて、具体物を使いながら指導していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たし算とひき算の筆算の単元末テストでは、90点以上の児童は、8割弱でした。時間がたつても正確に計算できるよう、今後も補習タイムを活用しながら、定着を目指します。 ・長さの学習では、ものさしを活用して、教室にあるものの長さを測ったり、自分の体の一部分を測ったりしながら、日常に生かすようにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期のたし算とひき算の筆算の単元末テストでは、90点以上の児童は、6割にとどまりました。学年末に向けて、補習タイム等を活用し、定着させます。 ・九九については、1～9の段を1分30秒以内で唱え合格した児童は、27名です。授業や補習タイムを活用し繰り返し練習して確実に覚えられるようにしていきます。 ・日々の生活で、「あと何分で2時間目が終わりますか。」など、時刻や時間を意識させる声掛けを行い、理解を深めています。現在、長さの学習でメートル(m)を習い、mm・cmを復習しながら、長さの感覚を豊かにしています。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しみ、2学年の読書目標100冊を達成できる児童を目指します。そのために、マイブックとしていつも手元に本がある状態にするなど読書環境を整えます。読み聞かせを行ったり、教科に関連する本を紹介したりして、読書に親しめるようにします。 ・調べ学習ができる児童を目指します。そのために、国語科・生活科と関連させ、読書科ノートを活用し、調べ学習などの探究活動を年間12時間行います。 ・パソコンに慣れ親しむ児童を目指します。そのために、電源の投入・終了、マウスなどによる操作を中心として、絵や文字を入れた簡単な作品を作ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・隙間時間には、本を読む習慣が身に付きつつあります。静かに本を読むこともできます。 ・朝読書の時間に、読書ノートを活用し、調べる学習の仕方を学びました。また、自分が調べたいことについて、調べる学習を行いました。本から必要な情報を見付け、分かったことをまとめる学習をしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が集中して、本を読むことができます。2学年の目標である100冊は、6名が達成しています。3月末までに ・読書科の学習では、調べる学習の学び方について知り、全員の児童が学習の流れを理解しています。文章から自分の問いの答えを見付けることが大変ですが、粘り強く本を読み、答えを探す姿が見られました。 ・パソコン学習では、カレンダーと名刺を作成しました。全員の児童が電源を入れたり消したりできます。マウス操作も友達と教え合いながらクリックやダブルクリックができます。
思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見出し、見通しをもって解決することのできる児童を目指します。そのために、授業の始めに、めあてを明確にし、課題を解決するための教材、場、時間を確保します。自分の考えを具体物、絵、図、言葉で表現できるようにします。授業の最後には、まどめを書いて振り返ることができるようにします。 ・自分の思いや考えをもち、友達に伝え合う児童を目指します。そのために、まずは、ペアや少人数で話し合う活動をし、相手の発言を受けて話をつなぐ(質問する、復唱して確かめる、共感を示す、感想を言う)ようにします。 ・ノートで思考の整理ができる児童を目指します。ノートの使い方を教え、めあて、考え、まどめなど問題解決の学習過程が見開きで分かるように指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてや課題を掲示して明らかにすることで、課題解決を意識して授業に取り組むことができました。9割の児童が、自分の考えを図や言葉で書くことができました。 ・ペアで自分の考えを伝える、相手の考えを聞く活動などを設けることで、質問したり、共感を示す児童が増えました。「同じです。」「付け足しです。」「違う意見です。」と言い、お互いの意見をつなげています。 ・実物投影機を使いながらノートの使い方を教え、黒板に書かれた文字を自分でノートに写すことができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあて・見通し・自分の考え・学び合い・練習問題・まどめ・振り返りという学習の流れは定着しました。 ・毎日1回は、ペアで考えを伝え合う学習を取り入れるようにし、全員の児童が友達に自分の考えを伝えることができます。相手の話を自分と比べながら聞くことができます。 ・実物投影機を使わなくても、全員が黒板に書かれた文字をノートに写すことができます。また、問題解決の過程が分かるようにノートを書くことができます。
学習習慣・学習規律	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く姿勢を身に付けます。そのために、話し方名人、聞き方名人を掲示し、目と耳と心で聞くように指導します。 ・家庭学習時間を毎日30分(15分×2年生)取り組むことを目指します。そのために漢字・音読・算数の宿題を毎日課します。児童の実態に応じて、自主学習も課し、模範になる児童の取り組みを掲示したり、「鹿骨東小家庭学習の手引き」を活用して指導します。 ・宿題の提出率100%を目指します。そのために、毎日提出を確認し、未提出児童に声掛けを行います。 ・チャイム着席・次時の授業の準備の習慣化を目指します。一日の流れを掲示し見通しを持たせるとともに、できている児童をほめたり、グループで声をかけあったりさせることで100%の定着を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く姿勢は、現在も指導中です。発表するときは、友達の方を見て、届く声で伝えることを指導中です。 ・家庭学習週間では、平日は、目標の30分間を達成しました。休日は目標時間に満たない児童が数名いました。 ・宿題の提出率は、約90%です。前日に声掛けをしたり、個別に指導したりしながら、今後も100%を目指します。 ・朝の会で1日の流れを伝え、黒板に視覚化しています。9割の児童がチャイム着席をしています。今後は、次時の授業準備に焦点をおきながら、褒めて価値付けすることで、100%の定着を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全体が集まるときは、以前に比べ、話を聞く切り替えが早くなりました。友達の方を見て、届く声で発表することは現在も指導中です。 ・家庭学習週間では、目標の30分は9割の児童が達成しています。自主学習ノートも模範となる児童の取り組みを見せ、内容も1学期に比べ、豊かになってきました。 ・宿題の提出率は、約90%です。忘れた場合はその日中に宿題を終えるようにしています。 ・ほぼ100%の児童がチャイム着席ができます。引き続き、時間を意識して行動できるよう声を掛けていきます。